

## 水上（みなかみ）で果せなかったレジャースポーツ

宇敷 辰男

上越線で上野から新潟に向うと、国境の長いトンネルを抜ける手前に水上温泉がある。最初にここを訪れたのは、昭和四十年代に大卒で入社した会社の先輩たちと行ったスキー旅行であった。温泉宿のコタツに入って、夜遅くまで酒盛りをした記憶がある。

昭和六十年代に関越自動車道が全線開通し、地元練馬から二〜三時間あれば車で簡単に行くことが出来るようになった。平成に入ると良く家族旅行で水上を訪れた。

平成十一年に父が亡くなった後にも母を連れて妹家族と訪れた。水上ICで降りて温泉街に向って行くと諏訪峡に着く。ここは清冽な利根川の流れが造りだした奇岩の続く渓谷である。河岸の岩に沿って造られた二キロ半程の遊歩道を歩いてゆくと、ラフティングのゴムボートが何艘も、浸食された岩壁や岩畳の間を流れる急流を下っていた。

初めてラフティングを知ったのは平成五年ケアンズ郊外の峡谷であった。白い飛沫が泡立つ激流の大自然の中で、オーストラリアの人達とネイチャースポーツを楽しもうと夫婦で挑戦した。ラフティングでスリルを満喫し痛快であった。ただゴムボートの同乗者三人が日本の出張サラリーマンだったのが残念であった。

日本でも平成六年に水上でラフティングツアーが始まり定着していった。

水上から国境の清水トンネルに向ってゆくと、谷川岳ロープウェイ土合口駅がある。ゴンドラに乗ると標高千三百メートルの天神平スキー場に着く。冬には谷川連峰の急峻な地形と厳しい気候で四メートルを超える積雪があり、五月まで春スキーを楽しむことが出来る。高校三年のときスキー教室に参加し、それ以来結婚した後も妻と毎年スキー旅行に行っていた。しかし天神平の春スキーを体験したことがないまま、十年前にスキーを卒業した。

水上のラフティングを調べてみると対象年齢は七十歳以下のツアーが多く、参加するにはもう手遅れである。スキーもラフティングも諦めて、久しぶりに水上温泉で群馬の地酒を楽しんでみたい。